

ローゼ・クラン台本_Story4

薔薇の十字架 前編

収録形式

フォルダ名 : rc_04-1_キャラクター名

ファイル名 : 台詞番号_04-1

収録形式 : 44100hz 16bit モノラル wav

台詞数

◆総台詞数 : 523

◆内訳

オルトヴィーン : 158

アンネローゼ : 72

パトリス : 159

ジョスリーヌ : 43

ハイゼンベルク : 19

ナターリエ : 18

少年1 : 15

少年2 : 12

少年3 : 11

少年4 : 12

教師 : 4

番号	キャラ名	台詞	ト書き
Scene1			
雨が降っている。その中を歩きながら新しい家を目指すオルトヴィーンと、彼に背負われたアンネローゼ。アンネローゼはぐったりとしている。			
001	オルトヴィーン	……やっとたどり着いた さあ、ごめんね、アンネ。 もうじき暖かいベッドで眠れるから、もう少し辛抱して……	家の門を開け、中に入る。玄関扉を開けて室内へ 雷が鳴っている……
002	オルトヴィーン	うん、なかなか広い家だ。 ……アンネ、君の部屋へ行こう。	階段をあがり、一つの部屋に入る。
003	オルトヴィーン	さあ、アンネ……	アンネをベッドに横たわせる
004	アンネローゼ	……ん……	眠気と倦怠感に襲われている
005	オルトヴィーン	苦しい？ アンネ…	心配
006	アンネローゼ	……とてもねむい…だけ……	
007	オルトヴィーン	そう……でも、心配だから、一応…… ……僕の血を少し分けてあげよう……多少は楽になるはずだよ	ベッドに乗り、アンネローゼの口元に首筋を寄せる。
008	アンネローゼ	いつも、ごめんなさい……	ゆっくりオルトヴィーンの首筋に唇を寄せる
009	オルトヴィーン	気にすることはない、さあ……	激しい雨が降り続けている……
Scene2			
010	ジョスリーヌ	ひどい雨ですね	窓から激しく降る雨を眺めている
011	パトリス	……	無視
012	ジョスリーヌ	明日もこのままの天気なのでしょうか……だとしたら嫌ですわね	
013	パトリス	……	無視
014	ジョスリーヌ	……	気まずい空気が流れる
015	ハイゼンベルク	ジョスリーヌ、パトリス、いるかね？	ノックし、部屋に入ってくる。
016	ジョスリーヌ	お父様 どうかさないまして？	立ち上がる
017	ハイゼンベルク	いやね……ナターリエがパトリスに会いたがっているから呼びに来たんだ。	歩み寄りながら

番号	キャラ名	台詞	ト書き
018	パトリス	！	勢いよく立ち上がり、部屋を出て行く
019	ジョスリーヌ	あ、パトリス……	
020	ハイゼンベルク	やれやれ、あの子は本当に……ナターリエのことになると一直線だね	
021	ジョスリーヌ	……	

パトリス、母の部屋に勢いよく飛び込む。

022	パトリス	母様！	母に駆け寄る
023	ナターリエ	パトリス……来てくれたの	ベッドに横たえていた身体を起こす
024	パトリス	ああ、横になったままで良いのに どうしたの、ハイゼンベルク…伯父様が、母様が僕を呼んでいるって	ハイゼンベルク、と呼び捨てにしようとして無理矢理「伯父様」をつけた感じ
025	ナターリエ	ええ、…少し、お前の顔が見たくなくて……	パトリスの頬に手を触れる
026	ナターリエ	雨の夜は少し不安になってしまうの……駄目なお母様でごめんなさいね……	
027	パトリス	駄目なんかじゃないよ、むしろとても嬉しい……	母を抱きしめる。
028	ナターリエ	ああ、可愛いパトリス……今夜はお母様と一緒に眠りましょう	パトリスを抱きしめ返す
029	パトリス	うん、いいよ…… 母様が望むなら、永遠にだって一緒に眠ってあげる。	母の胸に顔を埋めながら
030	ナターリエ	ふふふ、永遠にだなんて	
031	パトリス	……永遠に母様を独り占めできるなら、なんだってするよ、僕は……	ぽつりと呟く

Scene3

翌朝。 アンネローゼの部屋へやってくるオルトヴィーン

032	オルトヴィーン	アンネ、アンネ……調子はどうだい？	優しく声をかける
033	アンネローゼ	ん……だいぶいいみたい……本当にごめんなさい……	またぼんやりとしている
034	オルトヴィーン	構わないよ 連日雨が続いたものね、ずいぶん衰弱して……可哀想な僕の薔薇。 今日は一日お部屋で休んでおいで	アンネローゼの頭を撫でる
035	アンネローゼ	そうするわ……でも兄さまは……？ お傍にいてくださらないの……？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
036	オルトヴィーン	僕は少しだけ辺りを散策してくる。 薔薇があるかもしれないし、それにはじめて来たところはちゃんと見ておかないといけないからね	
037	アンネローゼ	そう……でも、できるだけ早く帰ってきてね……一人は寂しいわ	
038	オルトヴィーン	うん、分かってる。 すぐに戻るよ だから、良い子で待っておいでね	
039	アンネローゼ	ええ……	

Scene4

外の茂みを歩いているオルトヴィーン

040	オルトヴィーン	ふう……このあたりは随分と自然が多いようだね…… 良いことだけど、薔薇は見当たらないな……おや	遠くで足音がした
041	オルトヴィーン	誰か、いる……？	足音がしたほうへ向かう

足音がしたほうへ向かってみると、そこには薔薇園と、その薔薇を手折る一人の少年の姿があった。

042	オルトヴィーン	……やあ、君	驚く 近づきながら 不愛想に、冷たく 不愛想に、冷たく 握手の為に手を差し出す 冷めた目で差し出された手を見る 薔薇を一輪折り、そのまま去っていく 薔薇を一輪折る
043	パトリス	！	
044	オルトヴィーン	そんなに驚かなくても……それ、薔薇？	
045	パトリス	……このあたりじゃ見ない顔だな、誰だ？	
046	オルトヴィーン	僕？ 僕はオルトヴィーン。 最近このあたりに越してきたばかりなんだ。 君は？	
047	パトリス	……パトリス・ベルリオーズ	
048	オルトヴィーン	パトリス・ベルリオーズ。 よろしく	
049	パトリス	……	
050	オルトヴィーン	あれ、握手してくれないの？	
051	パトリス	……僕は忙しいんだ よそ者に構っている暇はないよ	
052	オルトヴィーン	おやおや。 ……パトリス・ベルリオーズ。ずいぶん可愛らしい顔立ちの少年だね。 ……なかなか薔薇も似合っていた。 あの高飛車な感じがなければ尚良し、と言ったところかな…… まあ、どうにせよ彼のおかげで薔薇を見つけられた。 今度、お礼に行かなくてはいけないね……ふふ	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
053	パトリス	『ローゼ・クラン-永久（とわ）の薔薇たち-』 ストーリー4（フォー） 「薔薇の十字架（ロザリオ）」	タイトルコール
Scene5			
054	オルトヴィーン	ただいま、アンネ	アンネローゼの部屋へと入る
055	アンネローゼ	おかえりなさい、兄さま……	まだ倦怠感が残っている
056	オルトヴィーン	運よく薔薇を見つけられたよ、ほら	薔薇を差し出す
057	アンネローゼ	ふふ、綺麗…… ……ああ、少し、気分が良くなってきたかも……	薔薇を抱きしめる
058	オルトヴィーン	それは良かった。 待っておいで、その薔薇でいつもの紅茶を淹れてあげる	
059	アンネローゼ	まあ嬉しい、ありがとう	オルトヴィーン、部屋を去っていく
場面変換 パトリスの家			
060	ジョスリーヌ	まあ、綺麗な薔薇ですね	
061	パトリス	……	無視して歩いていく
062	ジョスリーヌ	ナターリエ様に差し上げるのですか？	パトリスについていく
063	パトリス	……だったら何	不愛想に
064	ジョスリーヌ	あ、いえ……その……素敵な贈り物だなと思って……	
065	パトリス	……いちいち僕のあとをついてまわらないでくれない、ジョスリーヌ。 まさかハイゼンベルクの奴に、監視するように、とでも言われてるの	吐き捨てるように
066	ジョスリーヌ	ま、まあ、そんな、違います…… すみません、私ったら……貴方の迷惑も考えず……	申し訳なさそうに
067	パトリス	……普通怒るところだと思うけど	呆れて
068	ジョスリーヌ	え？	
069	パトリス	自分の父親が悪く言われたんだよ 普通怒るだろう。 それなのにどうして君は、いつもそうやってすぐ萎れて謝るんだ？	呆れて
070	ジョスリーヌ	……	言葉に詰まる
071	パトリス	……はあ	ため息を吐き、去っていく

番号	キャラ名	台詞	ト書き
072	ジョスリーヌ	……パトリス……	心配そうにパトリスの背中を見送る
場面転換 オルトヴィーンとアンネローゼの家			
073	オルトヴィーン	お待たせ、アンネ	紅茶のカップを差し出す、ベッドに腰掛ける
074	アンネローゼ	ありがとう、兄さま	カップを受け取る
075	オルトヴィーン	さあ、ゆっくりお飲み。 そうすればきっと回復するよ	
076	アンネローゼ	ええ、そうね。 ……ん……（紅茶飲む）……ふう……ああ、だいぶ身体が軽くなってきたような気がするわ……さっきまでは何か重しでも乗せられているんじゃないかってくらい、身体が重くって重くって仕方なかったの	だいぶ元気になってくる
077	オルトヴィーン	そう、良かった	微笑んで
078	アンネローゼ	……何かあった？	オルトヴィーンに身を寄せる
079	オルトヴィーン	え？	
080	アンネローゼ	分かるわ……兄さま、なんだかご機嫌が良さそう。 何か見つけたでしょ？	
081	オルトヴィーン	やれやれ、君は勘が鋭いね……ああ、うん……とても可愛らしい薔薇を見つけたんだ。	
082	アンネローゼ	ふうん、兄さまってば、お手の早いこと。	
083	オルトヴィーン	まだ分からないよ。 でも……この薔薇を見つけられたのは彼のおかげだから、そのお礼に明日行こうと思う。	
084	アンネローゼ	そう 私も行きたいけど……まだしばらく動けそうにないわ……	
085	オルトヴィーン	そうだね もうしばらく休んでおいた方がいい…… 大丈夫、そんなに長くはかからないよ。多分ね……	
086	アンネローゼ	だと良いけど	
087	オルトヴィーン	もし何かあったら、すぐに僕の名前を呼ぶんだよ	アンネローゼの髪を梳くように撫でる
088	アンネローゼ	分かってる もう、何百年こんな風に過ごしてきたとっちらるの？	
089	オルトヴィーン	ふふ、そうだね……流石に失礼だったかな。	
090	アンネローゼ	ええ、失礼よ	笑いながら

番号	キャラ名	台詞	ト書き
091	オルトヴィーン	ふふふ	オルトヴィーンから身を離し、ベッドに潜り込む アンネローゼの手を握る 手を握り返す
092	アンネローゼ	ふああ……眠くなってきちゃった……もうひと眠りするわね……	
093	オルトヴィーン	ああ、ゆっくりお休み。 眠るまで傍にいてあげる	
094	アンネローゼ	うん……	

Scene6

翌朝。オルトヴィーンはとある学園にいた。

095	少年1	おい、誰か校門のところに立ってるぜ	校門前に立つオルトヴィーンを不審がる
096	少年2	え？ あ、ほんとだ……でも見たことない顔だね	
097	少年1	あれ男かな？ えらく綺麗な顔してるけど……	
098	オルトヴィーン	ねえ、君たち	
099	少年1	！	驚く
100	少年2	！	驚く
101	オルトヴィーン	ちょっといいかな？	少年二人、校門へ近寄る 顔を顰める 顔を顰める 顔を見合わせる二人の少年 不審がって
102	少年1	えっ あ、ああ……	
103	オルトヴィーン	ここに、「パトリス・ベルリオーズ」という子はある？	
104	少年2	え……	
105	少年1	ベルリオーズ……？	
106	オルトヴィーン	この学園にいるって聞いたんだけど……知らないかい？	
107	少年1	知ってはいる、けど……	
108	少年2	……	
109	少年1	……お前、あいつの知り合い？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
110	オルトヴィーン	まあ、そんなもの。 ……どうしたの、彼と会うのは何かおかしい？	校門を開ける	
111	少年2	おかしいっていうか……		
112	オルトヴィーン	中に入っても構わない？ さすがに生徒じゃないから無理かな		
113	少年1	ベルリオーズの知り合いってんなら、入れても問題ない、と思うけど……		
114	オルトヴィーン	ありがとう それで、彼はどこに？		
115	少年2	さあ……多分、うろついてたらすぐ見つかるんじゃないかな あいつがいるところは分かりやすいんだ		
116	オルトヴィーン	ふうん……？		
117	少年1	お……俺たちがお前をいれたってこと、誰にも言わないでくれるか？		心配
118	オルトヴィーン	ああ、分かったよ 君たちがそうしてほしいならそうする		
119	少年1	や、約束だからな！ ……じゃあ、行こうぜ		
120	少年2	う、うん……		少年二人、去っていく
121	オルトヴィーン	……どうやら彼は、あまり好かれてはいなさそうな感じだね……	歩き出す……	
場面転換 学園の廊下				
122	少年3	げっ ベルリオーズだ！	嫌がる	
123	少年4	よけるよける！	少年二人、廊下の隅に避ける	
124	パトリス	……………	すました顔で歩き去っていく	
125	少年3	……見たか？ 今日ですました顔してさ……	ひそひそ	
126	少年4	ほんとヤな奴……	ひそひそ	
127	オルトヴィーン	ねえ、君たち	やってくるオルトヴィーン	
128	少年3	！	驚き	
129	少年4	あ、あんた誰だ？！ 生徒じゃない…よな？	驚き	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
130	オルトヴィーン	驚かせてごめん 事情があって「パトリス・ベルリオーズ」って子を探しているんだけど、見ていない？	
131	少年3	ベルリオーズだって？	顔を顰める
132	少年4	あんた、あいつの知り合い？	訝しんで
133	オルトヴィーン	まあ、そんな感じ	
134	少年3	あいつに知り合いなんていたんだ 意外だな	
135	少年4	ベルリオーズなら、さっきここをいつものすまし顔で歩いていったぜ 多分、中庭にいるんじゃないかな	
136	オルトヴィーン	そう、ありがとう	歩き去っていくオルトヴィーン
137	少年3	すげえ綺麗な顔してなかった？ 今の奴……	ひそひそ
138	少年4	うん……ベルリオーズも顔だけは良いと思ってたけど、それ以上だった	ひそひそ
139	少年3	つかベルリオーズの知り合いってだけで部外者も簡単に入れるなんて……なんつかほんとムカツくな、あいつ	ひそひそ
140	少年4	確かに	ひそひそ
場面転換 学園の中庭			
141	オルトヴィーン	……やあ、やっと見つけた	パトリスに歩み寄る
142	パトリス	……	無視
143	オルトヴィーン	君にお礼を言わないと、と思ってね。学園に入れてもらったんだ。 昨日は君のおかげで薔薇を見つけられた。ありがとう、助かったよ	
144	パトリス	……	無視
145	オルトヴィーン	……どうして何も言わないんだい？	不思議
146	パトリス	……お前、最近ここに来たばかりなんだ、って言ってたな	
147	オルトヴィーン	うん。越してきたばかりだよ	
148	パトリス	じゃあ教えてやる。 僕に馴れ馴れしく話しかけるな、近づくな！	勢いよく立ち上がる。怒り。
149	オルトヴィーン	どうして？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
150	パトリス	最近来たばかりのお前は知らないだろうけど、僕の家、ベルリオーズ家はこの街じゃ知らない者のいない貿易商だ。 この学園の運営にいくらか寄付だってしてる。それくらい偉い家なんだ。 だからお前たちみたいなやつらが気さくに声をかけて良い存在じゃないんだよ！	まくしたてる感じ
151	オルトヴィーン	へえ……可愛らしい薔薇だと思っていたけれど、随分と鋭い棘を持っているみたいだね	少し楽しそうに
152	パトリス	分かったらもう僕に近づくな	吐き捨てる
153	オルトヴィーン	やれやれ……がっかりだよ 僕ならいい友になれると思ったのに	
154	パトリス	友？	訝しげに
155	オルトヴィーン	君、友達がいらないだろう？ 君を探す途中、いろんな子たちに君のことを聞いたけど、みんな一瞬顔を顰めた。 そして誰も君を名で呼ばなかった。……パトリス、君、本当は寂しいんじゃないの？	
156	パトリス	！！ ふざけるなっ！	怒り心頭、オルトヴィーンに殴りかかる
157	オルトヴィーン	おっと	殴られる
158	パトリス	僕を馬鹿にしたな？！ ふざけやがって……っ！	無茶苦茶に殴りつけてくる、二人、倒れ込む
159	オルトヴィーン	うわっ	倒れて吃驚
160	パトリス	この…っ！ このっ！！	無茶苦茶に殴る
161	教師	！ パトリス・ベルリオーズ？！ あなた、何してるの、おやめなさい！！	通りがかった教師。悲鳴に近い声で
162	パトリス	こいつが悪いんだ、こいつが！ こいつが僕を馬鹿にした！！	オルトヴィーンを殴っている
163	教師	パトリス・ベルリオーズ！！ 見なさい、その子の顔を！！ 血まみれじゃないの！！	悲鳴のような叫び
164	パトリス	えっ……	我にかえる
165	パトリス	あ……ぼ、僕……	どうしよう…となっている
166	教師	あなた、大丈夫？！ ……あら、あなた、この学園の生徒ではないわね？ いえ、そんなこと今はどうでもいいわ、とにかく医務室へ行きましょう	慌てている
167	オルトヴィーン	これくらい平気です	立ち上がる
168	教師	で、でも……	
169	オルトヴィーン	ふふ、馬鹿にしたつもりはなかったんだけど……君の逆鱗に触れてしまったようだね。ごめんね、パトリス。 それじゃあね。	去っていくオルトヴィーン

番号	キャラ名	台詞	ト書き
170	パトリス	あ、…お、おい……	思わず呼び止めるが、オルトヴィーンは去る
Scene7			
171	アンネローゼ	お帰りなさい兄さま……って、きゃあ！ どうなさったの！？	傷だらけのオルトヴィーンに慌てて駆け寄る
172	オルトヴィーン	大丈夫 ちょっとした事故だよ	平然と
173	アンネローゼ	事故って……！ ああ、ひどい、ひどい！ 兄さまの綺麗な顔を、誰がこんな風に?! 許せない……！	怒り
174	オルトヴィーン	落ち着いて、アンネ。 これくらいの傷、一日もあれば治るよ。 だからそう興奮しないで	
175	アンネローゼ	兄さまは自分の事に頓着しなさすぎよ！ もう、酷い……こんなにたくさん血も出て……ああ、ひどい、ひどすぎるわ……	オルトヴィーンに抱き付く
176	オルトヴィーン	アンネ、	アンネローゼを宥める
177	アンネローゼ	ひどい……一体誰？ アンネに教えて……	怒りと悲しみ
178	オルトヴィーン	駄目だよ 教えたならその子に酷いことをするだろう？	
179	アンネローゼ	……	
180	オルトヴィーン	しない、と約束するなら、教えてあげてもいいけど	
181	アンネローゼ	しない…… と……思う、わ……	
182	オルトヴィーン	ふふふ。 ……僕の可愛い薔薇だよ、アンネ。 多分、暫くしたら会えると思うから、今は我慢して待っておいで	
183	アンネローゼ	どうしてわかるの？	
184	オルトヴィーン	彼の棘は、思ったより脆そうだからね	
185	アンネローゼ	……？	不思議
Scene8			
186	ハイゼンベルク	パトリス、学校で騒ぎを起こしたそうじゃないか。 もしナターリエが知ったらどう思うか……	お説教中
187	パトリス	……	ふくれている
188	ハイゼンベルク	君はもう少し、このベルリオーズ家の跡継ぎとしての自覚をもったほうがいい。 でないとジョスリーヌも可哀想だ	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
189	パトリス	……	ふくれている
190	ジョスリーヌ	お父様、もうやめてさしあげて。 パトリスはしっかり反省しているわ。	
191	パトリス	……	イライラしてくる
192	ジョスリーヌ	誰にだって虫の居所が悪いときはあるわ、お父様。 だからもう赦してあげて、ね？	
193	ハイゼンベルク	……ふうむ ジョスリーヌがそう言うのなら……	
194	パトリス	……っ	腹立たしい。部屋を出て行く
195	ジョスリーヌ	あ、パトリス……	
196	ハイゼンベルク	まったく、パトリスには困ったものだ	呆れて
197	ジョスリーヌ	……彼はきっと、とても辛いのです。 お母様にご病気で臥せっていらして、そしてお家の跡継ぎという重圧もあって…… だからどうか、パトリスを許してさしあげて、お父様……	
198	ハイゼンベルク	ジョスリーヌ、……お前は本当に優しい子に育ったなあ 私の自慢の娘だ。ベルリオーズ家の妻としても申し分のない、立派な娘だ。	喜ばしい
199	ジョスリーヌ	もう、お父様ったら……	苦笑しつつ
場面転換 パトリスの部屋			
200	パトリス	くそ……みんなして僕を馬鹿にして…っ！	イライラしている。ベッドに倒れ込む
オルトヴィーン「君、本当は寂しいんじゃないのかい？」			
201	パトリス	寂しい？ 僕が？ 馬鹿言うんじゃない……僕には母様がいるんだ……寂しいわけ、ないじゃないか……	弱弱しく
202	パトリス	父様が死んだときにくれたロザリオ……これだってあるんだ……寂しいわけない…… ……	ポケットからロザリオを取り出す。 暫くそれを眺め、立ち上がり、部屋を出る
場面転換 母の部屋の前			
203	パトリス	母様……	部屋の扉を開けかけて止まる
204	ハイゼンベルク	ナターリエ……	扉の向こうから聴こえてくる声
205	ナターリエ	ジャン……どうしたの……？	どことなく甘い雰囲気のある二人
206	ハイゼンベルク	いや、君が心配でね…… 落ち込んでいやしないかと……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
207	ナターリエ	まあ、別に平気よ…… ふふふ、あなたは優しいわ……	
208	パトリス	……っ！	扉に背を向け、部屋に戻る
209	パトリス	……寂しくなんか、ない……	空しく響く声……

Scene9

210	少年1	な、なあ……ほんとにここなのか？	オルトヴィーン達の家の前で少年たちがうだうだしている
211	少年2	多分……噂によると……今まで人の気配がなかった赤い煉瓦の家に、急に灯が灯るようになったって噂流れてたし……ここじゃないかな……	不安
212	少年3	で、でも今はカーテンが閉まっていて何も分かんねーぞ……	不安
213	アンネローゼ	……あなたたち、誰？	少年たちの傍に歩み寄る
214	少年4	ひっ！！	驚く
215	少年2	お、女の子…？！	怯え
216	アンネローゼ	……もしかして、あなたたちが私の兄さまのお顔を滅茶苦茶にした子たち？	
217	少年3	えっ！	焦り
218	少年4	ち、違う、違うよ！	焦り
219	少年1	あれは俺たちじゃない！！	焦り
220	アンネローゼ	ふうん？ 本当かしら……	近づく
221	少年2	ほ、ほんとだよお！！	怯え
222	アンネローゼ	でも、何か知っていそうね？ じゃあ、私に教えてくださらない？ 兄さまをあんな目に合わせたのが誰なのか……	
223	オルトヴィーン	アンネ	
224	少年1	！！	驚く
225	アンネローゼ	兄さま	
226	オルトヴィーン	こらこら、そんな怖い顔してどうしたの ……おや、君たち……あの学園にいた子たちだね	近寄ってくる

番号	キャラ名	台詞	ト書き
227	少年4	う、うん、……あの、えーと……	しどろもどろ
228	オルトヴィーン	ふふふ、いくらもらった？	
229	少年3	え……	
230	少年1	……	
231	少年2	……	
232	少年3	……	
233	少年4	……こ、これだけ……	ポケットから硬貨を取り出す
234	オルトヴィーン	素直だね ……覗きは感心しないな	怯え
235	少年2	ご、ごめ、ごめん…なさい……	
236	オルトヴィーン	まったく……三日も待たせておいて、来たのがこれか……ふふ、思った以上に手のかかりそうな子だ。 ……さあ、僕が怒る前に……というより、アンネが怒る前に早くここから立ち去ったほうが良い。 どうなっても知らないよ	怯えて
237	少年4	…っ い、いこう…	
238	少年1	お、おう……！	少年たち、走り去っていく
239	アンネローゼ	兄さま、怒っていらっしゃる？	楽しくなってきた
240	オルトヴィーン	まさか。想定外だったけど……いや、ある意味想定内かな……ふふふ、少し出かけてくるよ。 お前は家（うち）で待っておいで	
241	アンネローゼ	ええ～……もう私、元気なのに	
242	オルトヴィーン	悪いね、彼とは二人きりできちんと話がしたいんだ だから我慢して。帰って来たら、たくさんお相手してあげるから	
243	アンネローゼ	む～……絶対よ	
244	オルトヴィーン	うん、絶対。 それじゃあ、行ってくる。	
245	アンネローゼ	……もしまた兄さまがあんな風に滅茶苦茶になって帰って来たら、兄さまがなんて言おうと絶対に、許さないんだから。	まだ怒っている
場面転換 薔薇園			
246	オルトヴィーン	やあ、やっぱりここにいた。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
247	パトリス	！	驚く
248	オルトヴィーン	君の勇敢な使い走りたちに会ったよ ……ふふふ、君が来るのを待っていたのに、本当に君は僕をがっかりさせるね	歩み寄る、楽しそうに
249	パトリス	……	
250	オルトヴィーン	でも、そういうところがなかなか面白い。 手のかかる薔薇は嫌いじゃないよ	楽しそうに
251	パトリス	……傷	
252	オルトヴィーン	ん？	
253	パトリス	あれだけボコボコにしてやったのに、もう完全に消えてる……	
254	オルトヴィーン	ああ……僕は人より傷の治りが早いさ。 それに、あの程度の力じゃ僕の事をボコボコになんてできないよ	
255	パトリス	！ お前…！ やっぱ僕を馬鹿にして…っ！	カチンとくる
256	オルトヴィーン	僕をがっかりさせ続けている罰さ、パトリス。 ……また薔薇を摘んでいるんだね。誰かに贈るの？	
257	パトリス	お前には関係ないだろ	不愛想
258	オルトヴィーン	そうだね でも、世間話はこういう風にするものさ	
259	パトリス	お前と世間話なんてしたくない	不愛想
260	オルトヴィーン	でも君は、金を払って使い走りをまわしてきた程度には、僕の事を気にかけてくれていたようじゃないか	
261	パトリス	……	言葉に詰まる
262	オルトヴィーン	それにしても、ここの薔薇はどうしてこんな…林の中心に固まって咲いているんだろう？ しかも、この間結構な数を摘んだはずなのに、もうこんなにたくさん咲いて……不思議な薔薇だね	
263	パトリス	……昔、ここに住んでた女が植えた薔薇らしい…… 誰かに貰った薔薇らしくて…といっても種とかじゃなくて……一輪だけの薔薇……それを植えてみたら、周囲にこんなにたくさん薔薇が咲いた上に、世話をしなくても枯れることがなく、永遠に咲き続ける薔薇園になった、っていう……伝説みたいなのを、聞いたことが、ある……	ぼそぼそと
264	オルトヴィーン	……一輪だけの薔薇……	思い当たる節がある
265	パトリス	何ニヤニヤしてるんだよ	
266	オルトヴィーン	いや…少し懐かしいことを思い出してね まさかとは思うけど……でもあり得るな……僕たちが育てた薔薇だものね……ここに移り住んできたのかな ……	ぶつぶつと。(Story2のドロシア達のことを思い返している)

番号	キャラ名	台詞	ト書き
267	パトリス	何ぶつぶつ言ってんだよ！	イライラ 風が吹き、薔薇たちが揺れる 薔薇の花を撫でる 立ち上がる 去っていく 楽しそうに。
268	オルトヴィーン	ふふ、君は短気だね。 ……そんな伝説があるんだ、素敵だね。	
269	パトリス	……そう、…かも、な	
270	オルトヴィーン	君は、薔薇が好き？	
271	パトリス	……嫌いじゃないけど	
272	オルトヴィーン	そう 僕は大好きなんだ 美しい薔薇は心を癒してくれる……	
273	パトリス	……。 僕、もう帰る	
274	オルトヴィーン	あれ、もう帰っちゃうの？	
275	パトリス	別に僕がいつ帰ろうがどうだっていいだろ！ ……。 ……じ、じゃあ、な……	
276	オルトヴィーン	……ふふ、やっぱり。彼の棘は、思ったよりは脆い。	

Scene10

277	パトリス	……母様	ナターリエの部屋へと入ってくる 薔薇を見せながら 花を入れ替える
278	ナターリエ	あら、パトリス……どうしたの？ まあ、また薔薇を持ってきてくれたのね……	
279	パトリス	うん ほら、今日も綺麗でしょ	
280	ナターリエ	ええ、とても綺麗……	
281	パトリス	この間の分と入れ替えるよ	
282	ナターリエ	でも、まだこの間の薔薇は、綺麗に咲いたままよ……？	
283	パトリス	……ちょっと、使いたいんだ だから、新しいほうを母様にあげる	
284	ナターリエ	そうなの…… いいわ、お前の好きにおし	
285	パトリス	ありがとう、母様。	

場面転換 部屋を出てすぐの廊下

番号	キャラ名	台詞	ト書き
286	ジョスリーヌ	あ、パトリス…… 帰ってきていらしたのね、お帰りなさい。 ……あら、また、薔薇の花を持っているのね	近寄ってくる
287	パトリス	……	無視して歩き出す ジョスリーヌ、追いかける
288	ジョスリーヌ	この間の事、本当にごめんなさい。 もしかしてまたあなたの気分を害したんじゃないかと思って、	
289	パトリス	だったらさ	立ち止まる
290	パトリス	そう思うんだったら、今すぐ僕の前から消えてよ。 どうして君はいつもいつもそうやって僕のあとをついてまわるのさ。 この間も言ったよね？	不愉快
291	ジョスリーヌ	あ、…ご、ごめんなさい…… もちろんこの間のことは覚えているわ。 でも今回は、本当にあなたにただ謝りたくて、	
292	パトリス	君は僕の事を気にかけて心配して憐れんでいるつもりなんだろうけど、所詮は全部自己満足なんだよ。 君は、君がただ嫌な気持ちを抱えたままでいたくないだけだ。 僕の事なんて本当はこれっぽっちも心配してないし考えてない。 君が大事なのは僕じゃなくて自分自身なんだよ！	イライラしている
293	ジョスリーヌ	……っ！	流石にショック
294	パトリス	本当は僕の事なんて見下して、どうしようもないガキだと思ってるんだ でもフィアンセだから、父親も死んで母親も病に臥せっている可哀想な子だから、優しくしてあげなきゃって思ってる。 そしてそんな風にできる自分自身を素晴らしい人間だと思ってる！ 最低最悪の自己中だよ！ 違うか？！	イライラ
295	ジョスリーヌ	わ、わたし、そんな……そんなこと、	
296	パトリス	……消えて 早く僕の前から消えろ！！	イライラ
297	ジョスリーヌ	……っ	走り去る
298	パトリス	……。 ……最低最悪なのは、どっちだよ……	ぽつりと、罪悪感
場面転換 オルトヴィーンとアンネローゼの家			
299	アンネローゼ	ああ、兄さま、本当に良かった！ もしまたお顔がひどいことになっていたら、私きっと、耐えられなくなっていたと思うわ！ 本当に良かった……！	オルトヴィーンに抱き付く
300	オルトヴィーン	まったく、君は心配性だね。 大丈夫だよ、可愛い薔薇とは和解できたから	アンネローゼの頭を撫でる
301	アンネローゼ	本当に？ あんな目に合わせた相手と、よく仲良くしようなんて思うわね 兄さまって不思議……	
302	オルトヴィーン	ふふ ……棘の脆い子には、優しくしたくなるんだ	
303	アンネローゼ	それは知ってるわ でも、どれだけ可哀想な子だったとしても、この間の行為は許されざるものよ。 相手が『お気に入り』じゃなかったら、兄さまだってとっくの昔に『お食事』してるでしょ？	
304	オルトヴィーン	そうかもね	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
305	アンネローゼ	……もう、ほんとに、兄さまって変なところでお人よしのよね……	呆れ気味に
306	オルトヴィーン	ふふ……自覚してるよ そんなことより、ほら、今日も薔薇を摘んできたよ	薔薇を差し出す
307	アンネローゼ	…素敵。 こんな綺麗な薔薇、一体どこに咲いているの？	
308	オルトヴィーン	この家から少し歩いたところに、林があってね、そこの中心になぜかたくさん咲いているんだ。 それで、面白い話をきいたよ。	
309	アンネローゼ	面白い話？	
310	オルトヴィーン	そう 薔薇の紅茶を淹れたら話してあげる。 君もきっと「まさか」と思うよ	
311	アンネローゼ	へえ……ふふふ、楽しみ	

Scene11

312	パトリス	……………。 ……………何で僕は、こんなところに来たんだろう……	オルトヴィーン達の前でどうしようかと考えあぐねているパトリス
313	パトリス	…… ……ど、どうしたら……	迷っている
314	オルトヴィーン	やあ、いつまでそこで突っ立っているつもり？	二階の窓から声をかける
315	パトリス	!!!	吃驚
316	オルトヴィーン	門のところにベルがあるのが見えない？	
317	パトリス	オ、オルトヴィーン……	焦り
318	オルトヴィーン	あ、名前覚えていてくれたんだ 呼んでくれないからてっきりもう忘れられてるんだと思っていたよ	
319	パトリス	……	
320	オルトヴィーン	入っただよ 歓迎するよ。 門に鍵はかかってない。 ……おいで、パトリス	
321	パトリス	……う、うん……	門扉を開け、中へ……
322	パトリス	……思ったより大きな家だな……	家を見上げて
323	パトリス	！	玄関が開いて驚く
324	オルトヴィーン	いらっしゃい、パトリス ようやく君が会いに来てくれて嬉しいよ それも素敵な贈り物を持って。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
325	パトリス	べ、別に会いに来たわけじゃ……	
326	オルトヴィーン	ふふ……あがって。 妹も早く君に会いたってうずうずしていたんだ	
327	パトリス	妹……？	
328	オルトヴィーン	そう。 ほら、早く。	二人、屋敷の中へ
329	オルトヴィーン	そこのソファに座って待っていて。 今妹を呼んでくる。	去っていくオルトヴィーン
330	パトリス	……僕の家と同じくらい豪華な家具……それからあちこちに飾られた薔薇……広い家だけど……住んでいるのはオルトヴィーンと……妹……両親はいるのかな……	家を見渡している
331	オルトヴィーン	お待たせ …おや、座っていていって言ったのに。 それとも、君は立っているのが好きなの？	戻って来る
332	パトリス	！ べ、べつに、	ソファに腰掛ける
333	オルトヴィーン	ふふ…… さあ、紹介するよ この子はアンネ。 僕の可愛い……妹だ。	
334	パトリス	あ……	
335	アンネローゼ	はじめまして、パトリス…だったかしら？ アンネローゼよ	
336	パトリス	あ……え、……えっと……よ、よろしく、アンネローゼ……	アンネローゼに見惚れる
337	アンネローゼ	……あなたね？ 私の兄さまの顔を滅茶苦茶にしたのは	パトリスの頬に指をそわす
338	パトリス	！	
339	アンネローゼ	本当に許せない子…… でも、お人よしの兄さまが許すって言っているから、仕方なく許してあげる	
340	パトリス	え、えっと……そ、そのことは、本当に、悪かった、よ……	
341	アンネローゼ	悪かった、で済むと思って？ 兄さまのこの綺麗な顔を、あなたは滅茶苦茶にしたのよ。 すぐに治るような傷だったから良かったけれど、もし痕が少しでも残ったら……	まだ怒っている
342	オルトヴィーン	アンネ パトリスが怯えてるじゃないか。 駄目だよ、そんなに怒っちゃ	宥める
343	アンネローゼ	だって！ 許せないんだもの！	
344	オルトヴィーン	ふふ……気にしなくていいよ、パトリス。 傷はすぐに癒えたし、大した痛みもなかったからね それにほらアンネ、ご覧よ	
345	アンネローゼ	なに？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
346	オルトヴィーン	パトリスはとても綺麗な薔薇を僕たちに持ってきてくれたみたいだよ	
347	パトリス	あ、……ああ、そ、そうだよ、……お、お前が薔薇が好きだって言うから、お詫び、に……	薔薇を差し出す
348	アンネローゼ	……ふうん 薔薇をくださるの	薔薇を受け取る
349	アンネローゼ	綺麗ね。 ……でもなんだか、死の匂いがするわ	
350	オルトヴィーン	アンネ？	
351	アンネローゼ	誰か…ご病気の人の傍にでも置いていた？	
352	パトリス	！ な、なんで	驚き
353	アンネローゼ	やっぱり。 ……そんな薔薇を寄越すなんて、失礼な子。 でもまあ、良いわ……こういう薔薇は、もしもの時に役立つものね	
354	パトリス	役立つ？	不思議
355	オルトヴィーン	アンネ。 ……ごめんねパトリス。 何も気にしないで。	
356	パトリス	……	意味が分からない
357	オルトヴィーン	さて、折角来てくれた客人にお茶も出さないなんて無礼は許されないね。 すぐ淹れてくるから、二人とも待っていて。	お茶を淹れに行く
358	パトリス	あ、あの……アンネローゼ……	恐る恐る
359	アンネローゼ	なにかしら？	
360	パトリス	ほ、本当に、君の兄さんのことは悪かった、よ……薔薇も、その、使いまわしでごめん……だから、えっと…… どうしたら、許してくれる、かな…？	恐る恐る
361	アンネローゼ	……この薔薇、誰のところに置いていたの	
362	パトリス	え？ か、母様、だけど……	
363	アンネローゼ	へえ、あなたのお母様、ご病気なの。 お父様は？ いらっしゃるの？	
364	パトリス	……いや 父様は数年前に死んで……今は伯父が父様の代わりにひとまず仕事を継いでる……	
365	アンネローゼ	ふうん、そうなの	パトリスの隣に腰掛ける
366	パトリス	…… ！	アンネローゼが隣に腰掛けてきて吃驚

番号	キャラ名	台詞	ト書き
367	アンネローゼ	兄さまの言う通り、あなたの棘は思ったより脆そうね。 良いわ、もう許してあげる。 でももしまた兄さまをあんな目にあわせたら、兄さまが止めたって許してあげないから。	
368	パトリス	わ、わかったよ……ありがとう、アンネローゼ…… と、ところで、君とオルトヴィーンは本当に兄妹なの？ あまり似ていないような気がするんだけど、	
369	アンネローゼ	違うわ。 私と兄さまは本当の兄妹じゃない。……オルトヴィーン様は、私の命の恩人なの	
370	パトリス	命の恩人？	
371	アンネローゼ	そう。……ひとりぼっちになった私を、孤独から救ってくれた……ここに連れてきてくれた……とても大切な人なの。 だから傷つける人間は許さないわ。 たとえ兄さまの『お気に入り』でも、ね	
372	オルトヴィーン	お待たせ	お茶を持って戻って来るオルトヴィーン
373	アンネローゼ	ああ、良い香り 薔薇のお紅茶ね	
374	パトリス	薔薇の、紅茶……？	不思議
375	アンネローゼ	そうよ 私たちの大好きなお紅茶。 あなたも飲んでみるといいわ。きっと気に入るから。	
376	パトリス	そ、そう……？	
377	オルトヴィーン	……さっきよりは打ち解けたみたいだね。 良かった。	カップを置きながら
378	アンネローゼ	ええ	
379	パトリス	ま、まあ……	そうだろうか…と思いつつ
380	オルトヴィーン	さあ……折角来たんだ。 ゆっくり話そうじゃないか。	ソファに腰掛ける
381	パトリス	は、話すたって……僕は別に、ただ、その……薔薇を渡しに来ただけで、	
382	オルトヴィーン	世間話をするのは大事だよ、パトリス。 特に友人とはね	
383	パトリス	友人……？	
384	オルトヴィーン	そう 僕たちは友人だ。 そうだろう？	
385	パトリス	……	
386	オルトヴィーン	君は僕を心配して尋ねてきた。 はじめは…自分じゃ来なかったけど。 そしてこの間、会話をしてくれた。 ふふ、喧嘩だった。 もう立派な友人じゃないか	
387	パトリス	……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
388	オルトヴィーン	前に言っただろう？ 良い友になれると思った、って。	
389	パトリス	……	
390	オルトヴィーン	ふふ、まただんまりだ 君はすぐ口を噤んでしまうね。まるで本音を押し隠すように	
391	パトリス	……！	ハッとする
392	オルトヴィーン	アンネだって友人になりたいと思ってる そうだろう？	
393	アンネローゼ	……兄さまがそう言うなら、なっってあげてもいいわ	
394	オルトヴィーン	だ、そうだ。 君はアンネと親しくなりたいんじゃない？	ちょっとからかう
395	パトリス	なっ……！	照れる
396	アンネローゼ	あら、うふふ、そうなの？	嬉しい、ちょっとからかうように
397	パトリス	べ、べつに、そんなことな…いわけじゃ、ない、けど……	慌てる
398	オルトヴィーン	じゃあ、僕たちはもう友人だ、パトリス。 これからいつでも好きな時に遊びに来るといいよ	
399	パトリス	遊びに……？	
400	オルトヴィーン	そう。 友人の家に遊びに行くのなんて、至極当然のことだろう？	
401	パトリス	……。	
場面転換 屋敷の外、夕暮れ			
402	パトリス	なんか変な奴らだった、けど……でも……	
オルトヴィーン「じゃあ、僕たちはもう友人だ、パトリス。 これからいつでも好きな時に遊びに来るといいよ」			
403	パトリス	……友人……	にじみ出る嬉しさ 歩き去っていく……
場面転換 オルトヴィーンとアンネローゼの家			
404	オルトヴィーン	さて、どう思う、アンネ？	
405	アンネローゼ	そうね……確かに、兄さまの言った通り、思ったよりは脆い棘を持っているような気がするわ	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
406	オルトヴィーン	だろう？ だから大丈夫。 もう、怒りはおさまったかな？	
407	アンネローゼ	……まあ、許してあげることにしたの	
408	オルトヴィーン	ははは、そう、それは良かった。 君が怒ったままじゃ、事が進められないからね。	
409	アンネローゼ	でもどうしてあんな子を？ いつも兄さまが気に入るような子とは全然違う感じがしたわ	
410	オルトヴィーン	そうかな 君なら気づくと思ったけど	
411	アンネローゼ	私なら？	
412	オルトヴィーン	うん。 まあでも、もう少し親しくなってから、かな。 彼は自分から家（うち）に来てくれると思う？	
413	アンネローゼ	さあ、あの性格じゃ、恥ずかしがってこないかも	
414	オルトヴィーン	ふふ、僕もそう思う。 だから会いに行っておかないとね……	楽しそうに

Scene12

415	ジョスリーヌ	パトリス、お帰りなさい	帰ってきたパトリスに声をかける
416	パトリス	……ただいま	小さい声で
417	ジョスリーヌ	あの、……昨日は本当にごめんなさい。 つい、逃げてしまって	
418	パトリス	……君ってさ	
419	ジョスリーヌ	え？	
420	パトリス	本当に、どうして怒らないの？ 僕、どれだけ君に酷いことを言い続けているか分かってる？	今までよりは冷静に
421	ジョスリーヌ	……	パトリスの冷静さに少し驚いている
422	パトリス	普通は怒るよ。 明らかに馬鹿にされたら。 君は僕の頬を一発ひっぱたいたっておかしくない。 ハイゼンベルクに言いつけたって構わないんだぞ。 それなのに、どうしてそうしない？	出来る限り冷静につとめて話す
423	ジョスリーヌ	……パトリス…	
424	パトリス	君のそういうところがイライラするんだよ。 君は別に僕が好きってわけでもないだろう。 本当はほかに好きな男がいたはずだ。 それなのに無理矢理僕のフィアンセにされて、しかも家の都合でさ。 嫌じゃないの？	できるかぎり冷静に。話をしようとしている。
425	ジョスリーヌ	……私はお父様の言いつけに従うだけ。この結婚がお父様の為になるのなら、不本意でも受け入れます。でも、あなたに構うのはそれだけじゃないのよ。 本当に、あなたのことを想っているの。自分の事だけ……家の事だけ、考えているわけじゃない……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
426	パトリス	……へえ やっと君の本音を少しだけ聞いた気がするよ。 でも想うたって、ただ僕が可哀想な子どもだからだろう。	
427	ジョスリーヌ	それもない、と言えば嘘になるわ…… でも、でもね、パトリス……私はあなたが心配なの。いつか壊れてしまいそうで、	
428	パトリス	壊れる？ 僕が？ 何言ってるんだよ	
429	ジョスリーヌ	もし、お母様……ナターリエ様が亡くなったら、あなた、どうするの？	言いつらそうに
430	パトリス	！！ とんでもないことを言うなよ！！	怒る
431	ジョスリーヌ	でもこれは、いつか訪れる現実よ	
432	パトリス	お医者様は母様の病気は治るって言ってるんだ！！ そんなことあるわけないだろ！！	怒り
433	ジョスリーヌ	パトリス、	
434	パトリス	ああ、クソ…… 君とちゃんと話をしようとした僕がバカだった！	走り出す
435	ジョスリーヌ	パトリス！	
436	ジョスリーヌ	……。 あなたのそういうところが、本当に、心配なのよ……	
場面転換 パトリスの部屋			
437	パトリス	母様が死ぬ？ そんなことない……ないよ……	部屋に入り、ベッドに倒れ込む
438	パトリス	そうだよね、父様……？	ロザリオを取り出す、不安を隠せない。
439	パトリス	……雨…… 母様が不安になってしまう……傍に行ってもあげないと……	雷が鳴り出す 立ち上がり、部屋を出る
場面転換 母の部屋の前			
440	パトリス	母様…… ！	扉の向こうからまた声がる
441	ナターリエ	ああ、また雨だわ…… 最近はとても天気が悪いわね、ジャン……	甘い雰囲気二人
442	ハイゼンベルク	そうだね、ナターリエ	
443	ナターリエ	雨の日はなんだか不安な気持ちになるの……	
444	ハイゼンベルク	大丈夫だ、私が傍にいてあげるからね	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
445	ナターリエ	ああ、ありがとう……貴方は本当に優しいわ。 あの人にそっくり……	
446	ハイゼンベルク	そりゃあ、君の旦那とは兄弟だからね でも、兄には勝てないよ、彼は優しすぎた……	
447	ナターリエ	そうね でもジャン、あなたも十分すぎるくらい優しい……	
448	パトリス	……っ	嫌になって部屋の前から去る
449	ナターリエ	あら…今、足音が	
450	ハイゼンベルク	そうかい？	
451	ナターリエ	ええ……気の所為かしら	
452	ハイゼンベルク	きっと気のせいだよ、……雨で少し過敏になっているんだ。 大丈夫だよ、ナターリエ……	
453	ナターリエ	ジャン……	身を寄せあう二人……
場面転換 家の外。雨が激しく降り注ぐ……			
454	パトリス	…………… 寂しく、なんか……………	泣いている
455	オルトヴィーン	こんな雨の中、一人で突っ立って、どうしたんだい？	歩いてくる
456	パトリス	！ お前……	
457	オルトヴィーン	君はやっぱり立っているのが好きなの？ びしょ濡れじゃないか	
458	パトリス	……オルト、ヴィーン……っ	オルトヴィーンに駆け寄り、抱きつく
459	オルトヴィーン	なに？ …うわっ	抱き付かれて吃驚
460	オルトヴィーン	……どうしたんだい、パトリス？	心配
461	パトリス	今から君の家に行って、良い……？	オルトヴィーンの胸に顔を埋めて
462	オルトヴィーン	今から？ 別に構わないけれど……もうすぐ日が暮れるけどそれは平気？	少し驚く
463	パトリス	平気だよ 別に僕が帰らなくて、誰も気にしやしないから	吐き捨てるように
464	オルトヴィーン	それはどうだろう でもまあ、君がそうしたいというのなら、おいで。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
場面転換 オルトヴィーンとアンネローゼの家				
465	オルトヴィーン	ほら、昼間と同じものだけど、紅茶。 ……身体が冷えているだろうから、ゆっくりお飲み。	暖炉が燃えている暖かな部屋の中。カップを置く	
466	パトリス	……		
467	オルトヴィーン	何があったか知らないけど……泣いているように見えたのは、どうやら気のせいではなかったようだね		
468	パトリス	泣いてなんかない		
469	オルトヴィーン	嘘を言って。 泣いているよ、ほら…		涙を救う
470	パトリス	……っ		少しドキッとする
471	オルトヴィーン	自分で分かるだろう？ たくさん溢れてる。 とても悲しいことがあったんだね 君の気が落ち着くまで、家（うち）にいるといいよ		優しく
472	パトリス	あ…ありが、とう…… そ、そういえば、アンネローゼは？		
473	オルトヴィーン	彼女は今眠っているよ あの子は雨に弱くてね……雨が降ると臥せってしまうんだ		
474	パトリス	そうなの……		
475	オルトヴィーン	でも、雨さえ止めばすぐに元気になるから安心をして良いよ。 明日になればきっとまた話ができる		
476	パトリス	そっか、なら、良かった……	安堵	
477	オルトヴィーン	パトリス、何があったか話してくれる？ 嫌なら無理に、とは言わないけれど	パトリスの隣に腰掛ける	
478	パトリス	別に……話すような事じゃ……		
479	オルトヴィーン	でも、話したら少しは楽になるかもしれない。 一人で抱え込むのは辛い。 違う？		
480	パトリス	……。 ……ほ、本当に大したことじゃ、ないんだ……ただ、ただ……やっぱり君の言う通り、僕は……寂しいのかも、しれない……	訥々と話し始める	
481	オルトヴィーン	うん	相槌	
482	パトリス	僕の家は、前にも言ったと思うけど…このあたりじゃ知らない者はいない貿易商だ。でも父様が死んで……今は伯父がひとまず家業を継いでる 僕が大人になったら伯父と交代して家を継ぐ…はずなんだ でも本当は、伯父は、自分があの家を継ぎたいんだ。だから僕とジョスリーヌ……ああ、伯父の娘なんだけど、そいつと僕を結婚させようとしてる。そして僕とジョスリーヌを操って、結果的に自分がベルリオーズ家の頂点に立つつもりなんだ。 それと……	訥々と話す	
483	オルトヴィーン	それと？	相槌	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
484	パトリス	ぼ……僕の母様の事を、……好き、なんだと思っ 僕はそれがたまらなく嫌なんだ……母様もすっかりあいつに夢中だ…… さっきも、二人きりで……それがすごく、嫌で……	
485	オルトヴィーン	それで家を飛び出したのかい？	
486	パトリス	……うん……	
487	オルトヴィーン	その、ジョスリーヌって子はどうなの？ 君の事をどう思っている？	
488	パトリス	ただの憐れなガキだと思ってるよ、絶対に。 彼女は元々別に好きな男がいたんだ。でも伯父のせいで僕のフィアンセにされてしまった。 だから少なくとも僕に恋はしていない。そして僕の気持ちだってわかってくれやしないんだ……	
489	オルトヴィーン	……そう。 愛するお母様はほかの男に夢中。慕っていたお父様も亡くなられて、残ったのはベルリオーズ家の名を狙った伯父と、その伯父に従うフィアンセだけ、か。 ……君の孤独の理由がようやくわかったよ	
490	パトリス	……	
491	オルトヴィーン	パトリス、	パトリスを抱き寄せる
492	パトリス	え、 あ……	口づけられる
493	パトリス	ん、ん…… オ、オルト、ヴィーン……	動揺
494	オルトヴィーン	憐れな一輪の薔薇、……ずっとその孤独を一人で抱え込んで、さぞかし辛かっただろう。 でももう大丈夫。僕がいるよ	優しく。パトリスの頭を撫でる
495	パトリス	……	ドキドキしている
496	オルトヴィーン	僕たちは「友」だ。 孤独を共有しよう。 ……ずっと傍にいてあげるから、ね。	唇をパトリスの首筋に寄せる
497	パトリス	オ、オルト、ヴィーン？ な、なにを……	どきどき
498	オルトヴィーン	大丈夫、怖くないよ……	
499	パトリス	あ………	首筋に口づけられる
500	パトリス	……………ん……オルトヴィーン……僕………	どことなくぼんやりとして
501	オルトヴィーン	ふふ、……少し落ち着いた？	
502	パトリス	うん……何故、だろう……	ふわふわする
503	オルトヴィーン	おまじないをかけてあげたんだ。 君の心が少しでも癒されるようにね	
504	パトリス	おまじ、ない……？	ふわふわする

番号	キャラ名	台詞	ト書き
505	オルトヴィーン	そう。 友愛の証みたいなものだ。	パトリスを抱きしめる
506	パトリス	……	オルトヴィーンに身を寄せる
507	オルトヴィーン	ふふ、少し眠たそうだね ……今夜は泊っていく？	
508	パトリス	……そうしても、良い……？	少し甘えて
509	オルトヴィーン	勿論。 部屋ならいくらでもあるし、……何なら、一緒に寝る？	
510	パトリス	……それも、いい、かも……	
511	オルトヴィーン	ふふふ、そう。 君が素直にそう言うとは思わなかった。 よっぽど参っているんだね、可哀想に……。 じゃあ、一緒に眠ろうか、パトリス	
512	パトリス	うん……	二人、立ち上がり、寝室へ……

Scene13

513	ジョスリーヌ	……パトリス……まだ帰ってこない……	雨の降る外を眺めている
514	ジョスリーヌ	……お父様、	歩いてくるハイゼンベルクにむかって
515	ハイゼンベルク	あの子はまだ帰らんのかね まったく困った子だ。 どうしてこう、言うことを聞かないのか……	苛立っている
516	ジョスリーヌ	パトリスだって…自由に生きたいのですわ	
517	ハイゼンベルク	自由？ あの子はいつだって自由だろう。 これ以上ないほどに	
518	ジョスリーヌ	そんなことはないのです。 ……彼の心はきっと、私たちでは計り知れないほどに孤独に満ちているのです……	
519	ハイゼンベルク	孤独？ 私もいる、母親もいる、お前のような素晴らしいフィアンセだっている！ そうだ、お前の一体どこに不満があるというんだ？ こんな気立ての良い娘などいまだきおらん。 それなのにあの子は……	イライラして文句を言う
520	ジョスリーヌ	お父様。 ……今夜は、パトリスを放っておいてあげましょう。ね？ ナターリエ様には私が上手く言っておきます。だから……	
521	ハイゼンベルク	……。 お前には本当に苦勞をかけるね、本当に良い子だ……	
522	ジョスリーヌ	光榮ですわ、お父様……	ハイゼンベルクに背を向け、歩き出す
523	ジョスリーヌ	パトリス…… あなたの孤独を癒してくれる人は、この世界に、いるのかしらね……	悲しい

前編END

